

国語表記論の一構想

著者	京極 興一
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 1: 19(1980)
発行年月日	1980-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022339

国語表記論の一構想

信州大学教授 京 極 興 一

文字論は、文字の個別的な研究を主とする従来の方向から、文字列中の文字の用法、表記の体系の研究へと進みつつある。私はその動向の上に、さらに一歩進んで「国語表記論」の成立と構想について考えてみたい。すなわち国語のどのような要素を、どのような表記媒材によって、どのように表記するか、その組織・体系の究明を目指す表記媒材論と表記体系論を中心とし、表記様式の種類、使用分野、使用意識等を扱う表記様式論、表記における諸形式、視覚化のデザインを扱う表記デザイン論、国語国字問題、正書法を扱う表記規範論等によって構成され、関連分野として、表記史の研究、表記教育の研究を持つものである。なお、前記の諸領域はもはや、「文字論」の中では扱いきれないと考える。これに代る用語として「表記論」を提案したい。